

令和4年度和歌山県高等学校PTA指導者研修会に参加して

和歌山県立粉河高等学校
PTA会長 川端 敏之

平素は、粉河高等学校PTA活動に格別のご理解・ご協力を頂き誠にありがとうございます。

さて、令和4年12月3日(土)に和歌山県民文化会館で開催された令和4年度和歌山県高等学校PTA指導者研修会に参加してまいりました。今年度は、「健全育成とPTA」をテーマとし、コロナ禍でありましたが、感染対策を徹底し県下の高等学校PTA関係者が一堂に会し実施されました。子供の健やかな成長を育むためには、子供、学校、保護者、地域、行政等がしっかりとつながることが大切であり、PTA活動を通じて人と人とのつながりや社会におけるつながりを研修会で学ぶ趣旨で開催されました。



13時から、県高等学校PTA連合会役員による開会宣言で研修会が始まり、和歌山県高等学校PTA連合会会長の挨拶をはじめ、多くの来賓の挨拶や紹介などがあり、その後は広報紙コンクールの表彰式に移りました。最優秀賞は、一般社団法人 神島高等学校育友会様が選ばれ、多くの拍手に包まれました。この広報紙は、神島高等学校の特色が大きく表れており、同校ホームページで見ることができますので是非ご覧いただけたいと思います。

その後、リクルート「キャリアガイダンス」編集長 国立大学法人 東京学芸大学客員准教授 赤土 豪一(しゃくど ごういち)氏による演題『高校生と保護者の進路に関する意識調査より』の講演(第1部)が始まりました。赤土氏は、早稲田大学大学院を修了され、新卒でベネッセコーポレーションへ入社されました。そこでは、「スタディサプリ」の高校向けのキャリア教育プログラムの開発をされ、令和3年4月からは教員向けキャリア教育専門誌「キャリアガイダンス」の編集長に就任されています。講演では次のことが述べられていました。

○昨今では育成すべき資質・能力として思考力・判断力・表現力や主体性・多様性・協働性が求められる時代ですが、これまで重視されてきた知識の習得とその正確性だけでは、これからの社会を生き抜いていくことが難しくなっている。

○その中で保護者もそれらを理解し、子供たちへの接し方や期待することを考える必要がある。

ひと昔前までは、良い大学に入りなさいなどの言葉をよく耳にしましたが、今は減少傾向にあるみたいです。私も思い当たる節があり心に刺さるものがあったので、子供に対する接し方を見直す良い機会となりました。

続いて、ロンドンオリンピック 銅メダリスト 陸上自衛官 日本レスリング協会選手強化コーチ 湯本進一氏による演題『オリンピックに向けて家族のサポート』の講演(第2部)がありました。1984年に双子の弟として生まれ、小学校3年生の時から父親がレスリングをしていたこともあり双子の兄と共にレスリングを始められたそうです。高校生の時は兄弟揃って全国チャンピオンになり、大学に進学されても優秀な成績をおさめられ、兄弟揃って注目される選手へと成長していきました。大学卒業後は、自衛隊体育学校に入校され、双子の兄と共に2008年北京オリンピックを目指し、兄は代表選手に選ばれ銅メダルを獲得しましたが、自分は代表選手に選ばれず凄く悔しい思いをしたそうです。その悔しい思いを糧に練習に励み、2010年にはアジア選手権で優勝、その2年後の2012年ロンドンオリンピックでは代表選手に選ばれ、フリースタイル55Kg級で見事、銅メダルを獲得しました。日本オリンピック史上初となる「双子でメダリスト」となり注目をあびたそうです。しかし、ここまでの道のりは決して楽なものではなく、どうしても兄と比較され辛い思いもされ、くじけそうになった事もあったそうです。ただ、ここまで頑張ってきたのも、兄の存在やサポート、父の影響があったからだと話されておられました。素晴らしい家族だと心に響き、目頭が熱くなりました。今は現役を引退され、指導者として選手の育成に励み、最近では2020東京オリンピックで金メダルを獲得した乙黒選手の指導者として活躍されています。今後も素晴らしい指導者として頑張っていたいただきたいと思います。16時半に研修会が無事閉会しましたが、PTA活動を通じて勉強する機会を与えていただき本当に感謝しています。

私は、来年4月の総会をもって退任となりますが、最後まで頑張ってまいりますのでよろしくお願いたします。